

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 公益財団法人 茨城県国際交流協会

1. 事業名称 平成24年度茨城県日本語教育アドバイザー派遣

2. 事業の目的

県内の日本語教育の有資格者を茨城県日本語教育アドバイザーとして登録し、ボランティア日本語教室等が開催する日本語講師養成講座に派遣することによって、各地域における日本語指導者の拡充を図る。

3. 事業内容の概要

平成24年度茨城県日本語教育アドバイザー派遣要領 参照

平成24年度茨城県日本語教育アドバイザー派遣要領

1 目的

県内に在住する外国人を支援するため開催されているボランティア日本語教室が、ボランティア講師のレベルアップの研修会や初級教授法養成講座を実施する際に、指導者を派遣することによりボランティアの育成を図る。

2 事業主体

公益財団法人 茨城県国際交流協会

3 派遣の内容

(1) 派遣先(参加者数は、原則 **15名以上**とする。15名に満たない団体については他団体との共催も可。)

- ① 茨城県内のボランティア日本語教室を主催する団体及び組織
- ② ボランティア日本語教室の開催を予定する団体及び組織

(2) 派遣する講師

協会が「茨城県日本語教育アドバイザー設置要綱」により登録した日本語教授法の指導者

(3) 派遣の対象とする活動

すでに日本語を教えている講師を対象としたレベルアップ講座、及びボランティア日本語講師を養成するための初級日本語ボランティア養成講座

(4) 派遣の内容

- ① 日本語講師のためのレベルアップ講座：総受講時間は10時間を限度とする。

- ② 初級日本語ボランティア講座:総受講時間は、20 時間を下限、30 時間を上限とする。
- (5) 日本語ボランティア養成講座修了証の発行
受講者のうち出席率が 8 割以上で受講時間がレベルアップ講座で 8 時間以上、初級講座で 20 時間以上であった受講生に対して修了証を発行する。

※ この修了証は講座を修了したことを証するもので、日本語の教授法に係る資格を証するものではありません。

4 事業経費

講師の謝金・交通費は、原則当協会が負担し、教材費等の実費は主催団体または受講生が負担する。

5 申し込み手続き及び報告等

(1) 申し込み手続き

派遣を希望する団体は、派遣申請書（様式 1-A または 1-B）1 部を提出する。

申込締切日 平成 24 年 6 月 29 日（金）

事業実施期間 平成 24 年 9 月 1 日～平成 25 年 2 月 28 日

(2) 派遣の決定

申請書を審査し、派遣を決定して通知する。

(3) 事業報告

・派遣を受けた団体は、(公財)茨城県国際交流協会との共催事業であることを明示した資料を提出する。

・事業終了後 2 週間以内に実施報告書（様式 4）と実施報告書の電子データを提出する（様式の電子データは当協会のホームページからダウンロード可）。

・報告書等提出の最終締め切りは、平成 25 年 3 月 8 日（金）とする

【申請書の提出先】

公益財団法人 茨城県国際交流協会
〒310-0851 茨城県水戸市千波町後川 7 4 5 県民文化センター分館 2 階
電話 029-241-1611 FAX 029-241-7611 E-mail: iia@ia-ibaraki.or.jp
当協会ホームページ <http://www.ia-ibaraki.or.jp/>

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年8月30日 13:00～14:00	1時間	公益財団法人茨城県国際交流協会	代理出席 石寺 真 横田 美佐子 川俣 勝慶 代理出席 池本 和一 石川 絵理	平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業について	1. 日本語教育アドバイザー設置及び派遣について 2. 派遣申請の状況 3. 派遣先の決定について 4. その他
2	平成24年3月5日 15:30～16:30	1時間	公益財団法人茨城県国際交流協会	代理出席 海老根 光浩 横田 美佐子 川俣 勝慶 岩本 郁子 石川 絵理	平成24年度日本語教育アドバイザー派遣事業報告について	1. 派遣実績 2. 事業経費報告

【写真】



(第1回運営会議)

(第2回運営会議)

5. 日本語教室の設置・運営

(1) 講座名称 初級日本語ボランティア養成講座

- ① TokaiJLT にほんご教室 初級養成講座
- ② 子ども向け日本語ボランティアせきれいの会 初級養成講座
- ③ 龍ヶ崎市国際交流協会 初級養成講座
- ④ 国際交流友の会「さ・か・い」初級養成講座

(2) 目的・目標

養成講座を受講した日本語ボランティアが、各地域における日本語教室の設置及び運営を効果的に行う。また、既に日本語教室を運営している団体は、日本語教育の有資格者で経験のある講師のボランティア養成講座を受講することにより、新たな指導方法の習得や、教育内容の改善をすることができる。さらに当協会は、研修を受講した受講者が新たに日本語ボランティア教室の設置をする際等について助言を行う。

(3) 対象者 外国人のための日本語講師として活動するボランティア

(4) 開催時間数(回数) 20～30 時間 (全 10～12 回)

(5) 使用した教材・リソース

添付1を参照

(6) 受講者の総数 以下(7)に記載

(7) 受講者の募集方法

団体	媒体	受講者数
TokaiJLT にほんご教室	会員のメンバーに呼び掛け	16人
子ども向け日本語ボランティアせきれいの会	会員のメンバーに呼び掛け	14人
龍ヶ崎市国際交流協会	市の広報紙 ツイッター	21人
国際交流友の会「さ・か・い」	町の広報紙、呼びかけ	20人

(8) 日本語教室の具体的な内容

No.	実施団体	開催日	時間数	受講人数	会場	使用した教材	内容
①	TokaiJLTにほんご教室	9/12、9/26、10/10、10/24、11/14、11/28、12/12、1/9、1/23、2/13 合計10回	13:00~15:30	16	東海村姉妹都市交流会館	できる日本語初級、みんなの日本語初級Ⅰ、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集「02 健康・安全に暮らす(05)災害に備え、対応する(地震)」	・短期滞在者(3~6ヶ月)に対応でいい教え方 ・「できる日本語」の教え方を習いたい ・「みんなの日本語Ⅰ」を短期滞在者に対応して教えるには、どういう手順で行えばよいか
②	子ども向け日本語ボランティアせきれいの会	9/6、9/13、9/20、10/4、10/11、10/18、11/1、11/8、11/15、11/22 合計10回	13:30~15:30	14	水戸市国際交流センター	ひろこさんのにほんご2、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集01「健康を保つ」	・ひろこさん2・子供を対象とした教え方
③	龍ヶ崎市国際交流協会	10/7、10/21、10/28、11/4、11/11、11/18、11/25、12/2、12/9、12/16 合計10回	10:00~12:00	21	龍ヶ崎市市民活動センター	みんなの日本語初級Ⅰ、第2版、講座レジュメ「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集 1健康を保つ 01(01)「医療機関で治療を受ける」	・基礎、基本となる指導方法だけでなく、教える上での心構え等も学ぶ
④	国際交流友の会「さ・か・い」	9/5、9/19、10/3、10/17、11/14、11/28、12/12、12/19、1/9、1/23、2/13、2/27 合計12回	10:00~12:30	20	境シンパシーホールなかま	みんなの日本語初級1、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集「02 健康・安全に暮らす(05)災害に備え、対応する(地震)」	・初心者に日本語を教える心構え・みんなの日本語の使い方・副教材の活用法 教える際に陥りやすい間違い

(9) 特徴的な授業風景



(10) 目標の達成状況・成果

養成講座受講者は、新たな日本語教育ボランティアとして養成されるとともに、すでに活動している日本語ボランティアは更なるレベルアップをはかることができた。今回、講座修了後、受講生を対象にアンケート調査を行った。その結果、「講師の授業計画立案や準備、助言が良かった。」「講座を受けて視野が広まった。」などのコメントが寄せられ、受講者の満足度は高く、ボランティア日本語教室を安定的に運営する環境を整えることができた。

(11) 改善点について

日本語ボランティア教室の安定的運営には十分貢献できたが、日本語教室の新規開設までには至らなかった。理由としては、すでに県内31市町村98ヶ所でボランティアが運営されていることや、大震災や経済の低迷等によって日本語ボランティア教室で学ぶ学習者が減少したことが挙げられる。今後は、日本語教室が開催されていない市町村への教室開催の働きかけが必要である。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称 ①初級日本語ボランティア養成講座
 ②日本語講師のためのレベルアップ講座
- (2) 目的・目標 県内に在住する外国人を支援するため開催されているボランティア日本語教室が、ボランティア講師のレベルアップ研修や新たな人材養成のための初級教授法養成講座を実施する際に、指導者を派遣することによりボランティアの育成、手法のブラッシュアップを図る。
- (3) 対象者
 ①茨城県内のボランティア教室に所属する日本語指導者の初心者と経験者
 ②茨城県内のボランティア教室に所属する日本語指導者の経験者
- (4) 開催時間数(回数) 155 時間 (全 70 回)
- (5) 使用した教材・リソース
 添付2参照
- (6) 受講者の総数 173 人
 (出身・国籍別内訳 日本 173人)

(7) 受講者の募集方法

団体	媒体
取手市国際交流協会	会員メンバーに呼び掛け、メールでの広報
土浦市国際交流協会	ちらし
古河市国際交流協会	書面での案内
東海村国際交流協会	会員のメンバーに呼び掛け
那珂市国際交流協会	市のホームページ、那珂市国際交流協会のホームページ、ちらし
神栖市国際交流協会	メール
TokaiJLT 日本語教室	会員メンバーに呼び掛け
子供向け日本語ボランティアせきれいの会	会員のメンバーに呼び掛け
龍ヶ崎市国際交流協会	市の広報紙 ツイッター
国際交流友の会「さ・か・い」	町の広報紙

(10) 養成・研修の具体的内容

①古河市国際交流協会

回数	開講日時	参加人数	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	備考
1	10月6日 10:00～12:00	19	自己紹介、動詞の分類と活用	動詞の分類と活用を動詞カードと講師が作成した資料によりグループ作業で理解習得する	池田 優佳里	講師作成資料、動詞カード
2	10月13日 10:00～12:00	19	い形容詞、な形容詞の分類、意向形、命令形、禁止形	形容詞カードを使い、グループでい形、な形を分類、理解、習得することとかさねて、動詞、名詞との分類を学習。講師作成の資料に基づき学習。資料には、必ずタスクがあり、理解確認可能	池田 優佳里	講師作成資料、形容詞カード
3	10月20日 18:00～20:00	19	可能動詞	講師作成の資料と可能動詞カードを使って、カード取りゲームを実施。 講師作成の資料と可能動詞カードを使って、カード取りゲームを実施。 みんなの日本語初級Ⅱを使い、復習。動詞の分類ができないと動詞の活用ができないので、カードを使い復習。	池田 優佳里	講師作成資料、みんなの日本語初級Ⅱ
4	10月27日 18:00～20:0	19	自動詞、他動詞	講師作成の資料とカードゲームで学習、初級Ⅱテキストを使用して、指導法を実践指導してもらった。	池田 優佳里	講師作成資料、みんなの日本語初級Ⅱ
5	11月10日 10:00～12:00	19	動詞の分類、活用の復習、聴解練習の仕方、ごみ分別の仕方、日本語講師のための心構え	カードを使用し、動詞の分類、活用の仕方を学習。日本語初級Ⅱ対応読解タスク27課で実践学習。 文化庁作成の資料と古河市のごみ分別表及び、ゴミカ	池田 優佳里	動詞カード、日本語初級Ⅱ対応聴解タスク25、講師準備資料、15地域・社会のルール・マナーを守る(34)住民としてのマナーを守る

②国際交流友の会「さ・か・い」

回数	開講日時	参加人数	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	備考
1	9月5日 10:00~12:30	20	導入	各受講者の自己紹介及び応募動機を確認。指導上の心構え、1課に入る前の導入部、テキストの使用法を教えスムーズに授業展開が出来るようにする。	布浦 万代	①みんなの日本語初級 I (以下初級 I) 導入部 ②布浦講師考案指導用資料集(以下指導用資料) ③資料: ひらがな、カタカナ練習用紙
2	9月19日 10:00~12:30	20	自己紹介「～は～です。/ですか。」 主題と述部の理解	自己紹介ができる。「こ、そ、あ、ど」を使い指示物、指示場所が言えて、尋ねることができる。買い物が出る。	布浦 万代	①初級 I 1、2、3課 ②指導用資料集 ③資料: 国語文法と日本語文法
3	10月3日 10:00~12:30	20	時を言う 動詞の否定、過去、過去否定形 「行きます。/ 帰ります。」の使い方	時刻を使い、行動が言える。 カレンダーで昨日、今日、明日が言える。乗り物を使って外出できる。 誘ったり、誘われたりできる。 助詞「に」、「～は」、「～へ」の使い方と発音(言文不一致)に留意し指導する。	布浦 万代	①初級 I 24、25課 ②指導用資料 ③例文資料: 動詞た形「～たら(だら)、～」 動詞て形「～ても(でも)、～」 い形容詞「～かったら、～」、「～くても～」 な形容詞「～だったら～」、「～でも～」

4	10月17日 10:00~12:30	20	物の授受 い形容詞、な形容詞、及び否定形	物の動く方向を理解させ、「あげます、もらいます」を助詞「～に」、「～から」を使って言える。 「い形容詞、な形容詞」を使いペアワークの模擬授業(先生役と生徒役)を行い、先生役を模擬体験させる	布浦 万代	①初級 I 7、8課 ②指導用資料集 ③資料: い形容詞、な形容詞の活用一覧表
5	11月14日 10:00~12:30	20	い形容詞 な形容詞	前回の続きでペアワークでのモデル授業	布浦 万代	①初級 I 8課 ②指導用資料集
6	11月28日 10:00~12:30	20	い形容詞、な形容詞 好き、嫌い、上手、下手が言える。 物、人の所在が言える。	前回の続きペアワーク 「～ですから～」で理由が言えるよう数多くの文例を用意し学習する。 「～がいます。/あります。」の相違点に留意しながら使い分けができる。	布浦 万代	①初級 I 9、10課②指導用資料集
7	12月12日 10:00~12:30	20	数字を使って表す 過去の出来事が言える 比較表現が言える 手に入れたい物を言う	数詞を使い、色々な物の数が言える。 い形容詞、な形容詞の過去、及び過去否定形が言える。 「～は～より～」、「(～より)～のほうが～」を使い比較が言え、尋ねることが出来る。 「～がほしい。/～(し)たい。」を使い自分の希望、要望が言える。	布浦 万代	①初級 I 11、12、13課 ②指導用資料集 ③例文資料: 「～がほしいです、～たいです。」
8	12月19日 10:00~12:30	20	動詞 て形 形容詞、名詞を連ねて使い、物を描写	動詞の3グループ分けを学習し、て形を作り「～てください。」で依頼ができる。「～てもよいです。」許可の文を作る。 ます形から「～ でしょうか。」申出が言える。 「～(し)ています。」で進行中の動作が言える。 て形を連ねて時系列に「～て、～て～、～ます。」が言える。 形容詞文、名詞文をつなぐことができる。 動詞グループ分けを理解し否定形を作る。「～ないでください。」、「～なければなりません。」、「～なくてもいいです」が言える。 既習動詞を発展させ辞書形を学び「～ことができます。」、「(辞書形)～まえに、～します。/しました。」が言える。 【動詞を形】～ます、～し、～ました、～て、～	布浦 万代	①初級 I 14、15、16課 ②指導用資料

9	1月9日 10:00~12:30	20	動詞ない形 辞書形 動詞た形 い形容詞く、な形容詞に+なりました	動詞グループ分けを理解し否定形を作る。 「～ないでください。」「～なければなりません。」「～なくてもいいです」が言える。 既習動詞を発展させ辞書形を学び「～ことができます。」「(辞書形)～まえに、～します。/しました。」が言える。 「(動詞た形)～たり、～たりします。」で複数の動作を並べて言える。	布浦 万代	①初級 I 17、18、19課 ②指導用資料集 ③例文資料:「～ないでください」 ④例文資料:「辞書形+ことができます」
10	1月23日 10:00~12:30	20	外国人生活者の為に、災害時の対応を考える	災害時の対応法を、外国人生活者に指導する際の、指導者側の事前準備、指導の際の留意点を学ぶ。 防犯、防災、救急、避難時の緊急用語彙の指導の必要性を学ぶ。	布浦 万代	茨城県国際交流協会送付資料抜粋 各地自治体の多言語防犯、防災サイト案内
11	2月13日 10:00~12:30	20	丁寧形、普通形 人/物の前に修飾文を加えた 詳しい説明 文と文をつなぐ	丁寧形と普通形を学習し、それぞれ現在、否定、過去、過去否定を学ぶ。 「普通体+思います/言います/でしょう」で推量、意見、感想が言える。 複文で人や物の詳しい説明が出来る。 道具の使い方、道順を説明出来るようにする。 「～とき、～」、「～と、～」で文をつなぎ説明ができる。	布浦 万代	①初級 I 20、21、22、23課 ②指導用資料集 ③資料:「動詞て形+あげました、もらいました、くれました」の練習表
12	2月27日 10:00~12:30	20	授受表現	「(人)は私に(物)をくれました。」「私は(人)に(物)を(動詞て形)あげました。」「私は(人)に(物)をもらいました。」「私は(人)に(物)を(動詞て形)もらいました。」 物の動く出発点と着地点に留意し指導する。 文1と文2の接続で、動詞、形容詞、名詞を順接、逆接でつなぐ用法を学習。	布浦 万代	①初級 I 24、25課 ②指導用資料 ③例文資料:動詞た形「～たら(だら)、～」 動詞て形「～ても(でも)、～」 い形容詞「～かったら、～」、「～くても～」 な形容詞「～だったら～」、「～でも～」

(11) 特徴的な授業風景



③子供向けボランティアせきれいの会

回数	開講日時	参加人数	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	備考
1	平成24年9月6日 13:30～15:30	14	文化庁の指定による授業(1)	文化庁の指定による授業(1) 健康を保つ 医療機関で治療を受ける(1)	片山 尹久子	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集01「健康を保つ」
2	平成24年9月13日 13:30～15:30	14	文化庁の指定による授業(1)	文化庁の指定による授業(2) 健康を保つ 医療機関で治療を受ける(2) 文型を考える(模擬Ⅰ・Ⅱ) 模擬授業の分担	片山 尹久子	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集01「健康を保つ」
3	平成24年9月20日 13:30～15:30	14	模擬授業	～てください (41課) ～てもいいです (44課)	片山 尹久子	ひろこさんのにほんご2
4	平成24年9月27日 13:30～15:30	14	模擬授業	～ないでください (45課) 可能動詞 (46課)	片山 尹久子	ひろこさんのにほんご2
5	平成24年10月11日 13:30～15:30	14	模擬授業	～(V)て、～(V) ～時、～ (54課)	片山 尹久子	ひろこさんのにほんご2
6	平成24年10月18日 13:30～15:30	14	模擬授業	～前に、～ (62課) ～と思います (63課)	片山 尹久子	ひろこさんのにほんご2
7	平成24年10月25日 13:30～15:30	14	模擬授業	～になります・～くなります(64課) 文型を考える(模擬Ⅲ)	片山 尹久子	ひろこさんのにほんご2
8	平成24年11月8日 13:30～15:30	14	模擬授業	～と、～ (66課) ～なければなりません(68課)	片山 尹久子	ひろこさんのにほんご2
9	平成24年11月15日 13:30～15:30	14	模擬授業	～ようになりました (77課) ～たら、～ (79課)	片山 尹久子	ひろこさんのにほんご2
10	平成24年11月22日 13:30～15:30	14	模擬授業	～んです (87課)	片山 尹久子	ひろこさんのにほんご2

④取手市国際交流協会

回数	開講日時	参加人数	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	備考
1	10月 6日 13:30～16:00	17	自己紹介、教科書の使い方	・初対面の挨拶の方法を皆で実践 ・教科書・指導者の使い方を詳しく学ぶ	中谷 あゆみ	みんなの日本語初級Ⅰ
2	10月13日 13:30～16:00	17	普通形、連体修飾	・初対面の挨拶の方法を皆で実践 ・教科書・指導者の使い方を詳しく学ぶ	中谷 あゆみ	みんなの日本語初級Ⅰ
3	11月10日 13:30～16:00	17	受身	・プリントで受身文の3種類を確認 ・導入を班ごとに考え発表	中谷 あゆみ	みんなの日本語初級Ⅱ
4	11月17日 13:30～16:00	17	Can-do方式「地震」	・地震が起きた時の行動の良しあしの考え方を皆で考え発表 ・文化庁のカリキュラムへのアクセスの方法も教える	中谷 あゆみ	02安全を守る(05)災害に備え、対応する(地震)、

⑤神栖市国際交流協会

回数	開講日時	参加人数	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	備考
1	1月26日 14:00～16:30	15	1. 授業の進め方 日本語の教え方他 2. 日本語指導教案作成について 3. 文法説明とその教え方	1. 日本語の教え方 2. 日本語指導教案 本レベルアップ講習終了時までには作成することを確認 3. みんなの日本語初級Ⅰ 1課～13課 藤井先生作成資料及び教科書で講義	藤井 美 治子	1.藤井先生作成資料をコピー配布;日本語の教え方 2.文化庁教材(05)災害に備え対応する(地震) 3.みんなの日本語初級Ⅰ
2	2月2日 14:30～17:00	15	1.文型説明とその教え方	1.藤井先生作成資料及びみんなの日本語初級Ⅰ 14課～30課 講義	藤井 美 治子	1. 藤井先生コピー配布「自動詞と他動詞」他 みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ
3	2月9日 14:00～16:30	15	1. 文型説明とその教え方 教材フォーマット作成	1.藤井先生作成資料及びみんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ 13課～42課 講義 2.「生活者としての外国人」に対する、地震対応の教材フォーマット作成について 1)グループを2つに分け、波崎グループ:14課、神栖グループ:30課で、教材フォーマット作成することに決定。 2)2月16日(土)までに先生へメール送信し、先生チェック結果を2月23日に確認。	藤井 美 治子	藤井先生コピー配布 「意志」「目的・理由」 「命令・禁止」 2.みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ
4	2月23日 14:00～16:30	15	1.文型説明とその教え方 2.提出教材フォーマットの確認 3.講義全般に関する質疑応答	1.藤井先生作成資料及びみんなの日本語初級Ⅰ 21課、Ⅱ 32課～50課 2.作成教材フォーマットに関する先生のコメント。 各グループの最終作成教材フォーマットを先生へメール送付する。 3.今回が最終回であり、講義全般に関する質疑応答実施。	藤井 美 治子	1.藤井先生コピー配布「敬語」「使役・受身」「推量・様態・伝聞」 2.みんなの日本語初級Ⅱ

⑥土浦市国際交流協会

回数	開講日時	参加人数	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	備考
1	11月2日 14:00～16:00	16	地震に備え、対応する際の日本語指導教案について	A、B、Cの3グループに分ける A:『みんなの日本語初級Ⅰ』 1課～13課の文法事項を使って B:『みんなの日本語初級Ⅰ』 14課～25課 C:『みんなの日本語初級Ⅱ』 26課～50課 1課～25課までの文法説明	藤井 美治子	みんなの日本語初級Ⅰ、みんなの日本語初級Ⅱ、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集(05)災害に備え、対応する(地震)
2	11月9日 14:00～16:00	16	地震に備え、対応する際の日本語指導教案について	Aグループに対する指導 文型説明:条件 (23、25、35課) 自動詞と他動詞 (15、29、30、33課) 授受表現「ウチとソト」 (7、24、26、41課)	藤井 美治子	みんなの日本語初級Ⅰ、みんなの日本語初級Ⅱ、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集(05)災害に備え、対応する(地震)
3	11月16日 14:00～16:00	16	地震に備え、対応する際の日本語指導教案について	Aグループ発表 文型説明:形式名詞(9、18、38、46課) 変化、理由の表現 (9、19、26、35、39課) 意思・目的・命令表現 (13、31、33、42課) Bグループに対する指導	藤井 美治子	みんなの日本語初級Ⅰ、みんなの日本語初級Ⅱ、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集(05)災害に備え、対応する(地震)
4	12月7日 14:00～16:00	16	地震に備え、対応する際の日本語指導教案について	Bグループ発表 文型説明:受身、使役、使役受身 (37、48課) 推量、様態・伝聞表現 (21、32、33、43、47課) 敬語(49、50課) Cグループに対する指導	藤井 美治子	みんなの日本語初級Ⅰ、みんなの日本語初級Ⅱ、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集(05)災害に備え、対応する(地震)
5	12月14日 14:00～16:00	16	地震に備え、対応する際の日本語指導教案について	Cグループ発表 総括、質問	藤井 美治子	みんなの日本語初級Ⅰ、みんなの日本語初級Ⅱ、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集(05)災害に備え、対応する(地震)

⑦Tokai JLT にほんご教室

回数	開講日時	参加人数	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	備考
1	9月12日 13:00～15:30	16	できる日本語初級」 「みんなの日本語 初級 I」の比較	自分のこと／考えを伝えるちから・伝え合う力をつける方法を学ぶ。	伊森 洋子	できる日本語初級 みんなの日本語初級 I
2	9月26日 13:00～15:30	16	自己紹介 名詞文	名詞文、「こそあど」を学習。簡単に自分のことを話したり、相手のことを聞いたりできる方法を学び、実践する。	伊森 洋子	できる日本語初級 みんなの日本語初級 I
3	10月10日 13:00～15:30	16	動詞文・ます形	動詞の特徴を学習。予定を聞いたり身近なことを話したりすることができる方法を学び、実践する。	伊森 洋子	できる日本語初級 みんなの日本語初級 I
4	10月24日 13:00～15:30	16	形容詞文 存在文・所在文	形容詞の導入の仕方を学習。自分の国について周りの人に紹介できる方法を学び、実践する。	伊森 洋子	できる日本語初級 みんなの日本語初級 I
5	11月14日 13:00～15:30	16	動詞文・形容詞文の過去 希望の表現	動詞文・形容詞文の過去、希望の言い方を学習。休みの日の出来事や予定について友達や周りの人と簡単に話す方法を学び、実践する。	伊森 洋子	できる日本語初級 みんなの日本語初級 I
6	11月28日 13:00～15:30	16	誘いの表現 比較	友達を誘ったり、一緒に相談したり、約束をしたりする方法を学び、実践する。	伊森 洋子	できる日本語初級 みんなの日本語初級 I
7	12月12日 13:00～15:30	16	て形	動詞のグループの分け方を学習。「て形」の導入の方法を学習。周りの状況を簡単に友達に伝える方法を学び、実践する。	伊森 洋子	できる日本語初級 みんなの日本語初級 I
8	1月9日 13:00～15:30	16	安全を守る	災害に備え、対応する(地震) 地震の時に行動できるようにする。	伊森 洋子	文化庁指定教材
9	1月23日 13:00～15:30	16	授受表現	物のやりもらいの表現を学習。友達にあげるプレゼントや自分がもらったプレゼントについて話す方法を学び、実践する。	伊森 洋子	できる日本語初級 みんなの日本語初級 I
10	2月13日 13:00～15:30	16	動作の順序、辞書形	趣味について話したり、質問したりする方法を学び、実践する。自分が知っていることを順序良く説明する方法を学び、実践する。	伊森 洋子	できる日本語初級 みんなの日本語初級 I

⑧東海村国際交流協会

回数	開講日時	参加人数	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	備考
1	10月27日 18:30～20:30	20	本研修のアウトラインについて	今までの指導活動を振り返り、意見を出し合う。 グループ毎に、目的・目標・想定される利用者・概要・特徴を決める。 教材の説明を受ける。	八若 壽 美子	生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集」 O1健康を保つ(O1)医療機関で治療を受ける、
2	11月3日 18:00～20:00	20	学習内容の検討	学習者の ・状況、ニーズ ・生活課題 ・地域のリソースを把握する。	八若 壽 美子	生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集」
3	11月24日 18:00～20:00	20	教室活動の選択及び計画	前回の活動から、シミュレーションする教室活動を選ぶ。 各グループで活動内容、順序、サポート情報等の計画を立てる。	八若 壽 美子	生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集」
4	12月8日 18:00～20:00	20	ロールプレイタスク ～準備～	外国人が医療機関を利用する際の対応について、指導方法をグループ毎に話し合う。学習者の日本語レベルや生活環境に合わせた指導方法を考える。	八若 壽 美子	生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集」
5	12月22日 18:00～20:00	20	ロールプレイタスク ～発表～	今までの活動で話し合った内容を、グループ毎に発表する。	八若 壽 美子	生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集」

⑧那珂市国際交流協会

回数	開講日時	参加人数	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	備考
1	10月10日(水) 13:30～15:30	15	みんなの日本語初級Ⅱからの学習	「～んです。」の使い方	鈴木 修子	みんなの日本語初級Ⅱ
2	10月24日(水) 13:30～15:30	15	みんなの日本語初級Ⅱからの学習	可能動詞について	鈴木 修子	みんなの日本語初級Ⅱ
3	11月14日(水) 13:30～15:30	15	みんなの日本語初級Ⅱからの学習	～ながら、～ています、～し の使い方	鈴木 修子	みんなの日本語初級Ⅱ
4	11月28日(水) 13:30～15:30	15	みんなの日本語初級Ⅱからの学習	～ています、～てしまいます の使い方	鈴木 修子	みんなの日本語初級Ⅱ
5	12月12日(水) 13:30～15:30	15	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集15地域・社会のルール・マナーを守る(34)住民としてのマナーを守るを使用した教案作成	敬語について ゴミ出しに関する教材の提案 正しい日本語とは…	鈴木 修子	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集15地域・社会のルール・マナーを守る(34)住民としてのマナーを守る

⑨龍ヶ崎国際交流協会

回数	開講日時	参加人数	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	備考
1	10月7日 10:00～12:00	21	日本語教育者の資質、文字	一人ひとりの受講理由を聞く。その後、教育者の資質、文字については、意見を話し合いながら、授業を進める。	川辺千恵子	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版、講座レジュメ
2	10月21日 10:00～12:00	21	カタカナ・漢字について、テキスト第1課	意見を出し合いながら、授業を進める。インタビューシートは、実際に友達同士になって、経験する	川辺千恵子	同上
3	10月28日 10:00～12:00	21	名詞文、数字についてテキスト第3課	プリント、教科書を受講者に読んでもらいながら、授業を進める。	川辺千恵子	同上
4	11月4日 10:00～12:00	21	数字、カレンダーについて、移動動詞について	・教科書の例文を見ながら説明する	川辺千恵子	同上
5	11月11日 10:00～12:00	21	他動詞について、授受表現について	教科書、レジュメを受講で輪読しながら、進める。	川辺千恵子	同上
6	11月18日 10:00～12:00	21	形容詞について	プリントを輪読しながら進める。	川辺千恵子	同上
7	11月25日 10:00～12:00	21	存在文と所在文について、助数詞について、形容詞の肯定、否定、	プリント、テキストを輪読のち講師からの説明を受ける。	川辺千恵子	同上
8	12月2日 10:00～12:00	21	願望表現について、動詞の活用	プリントを少しずつ輪読しながら、説明を受ける。プリントの表の空欄を埋める作業を行う。	川辺千恵子	同上
9	12月9日 10:00～12:00	21	「医療機関で治療を受ける」の教案について	プリントを少しずつ輪読しながら、説明を受ける。絵を見て、実際の練習をする、教案について	川辺千恵子	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集 1健康を保つ 01(01)「医療機関で治療を受ける」
10	12月16日 10:00～12:00	21	動詞のて形について	プリントを輪読しながら、説明を受ける。	川辺千恵子	みんなの日本語初級Ⅰ 第2版、講座レジュメ

(11) 目標の達成状況・成果

初級日本語ボランティア養成講座、日本語講師のためのレベルアップ講座は、指導者の派遣による新たなボランティア講師の育成、教授法のブラッシュアップを目標とした。修了後に実施したアンケートの一部を抜粋すると「日本人であっても、日本語を教えることは難しい。教授法を学ぶことができ、とても役立った」「文法を新しい角度から学べた」「新たな知識を習得でき、実際に教える際に生かしたい」「今まで外国人に教えるにあたり、あいまいだった点や疑問点等を講師から教えていただき、とても役立った」等のコメントが挙がった。このように、この講座が日本語教育を行うボランティア講師の養成・研修だけでなく、日本語を教える上で生じる疑問を相談する場となり、新しい角度から教授法を学べる貴重な機会にもなっている。

この養成講座は、実施する前に、事前に講師と派遣先の担当者が打ち合わせを行った。打ち合わせを行うことで、講師は、派遣先のボランティア教室の活動状況、希望する講座内容などを把握し、実施団体のニーズを的確にくみ取った研修内容を

構成でき、その結果、受講者の要求に沿った満足度の高い講座を実施できた。講座の中では、経験の豊富な講師たちの様々な経験事例や失敗談も話されるため、受講生たちにとっては学ぶところが多かった。「外国人が日本で、少しでも生活しやすくなるように教えていきたい」等の感想も寄せられた。

(12) 改善点について

限られた時間・講座の回数の中で、講師は、受講者からの多くの要望や質問等に対応するため、予定した内容を時間内に終わらせるには急ぎ足で授業を進めなくてはならなかった。講師の負担は大きかったが、事前に打ち合わせを行うことで、時間を有効的に使うことができ、スムーズに講座を進めることができた。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称

団体名	作成日	教材名 (教案内容)
東海村国際交流協会	11月24日	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集 「01 健康・安全に暮らす (01) 医療機関で治療を受ける」を使用した教授法、教案について
古河市国際交流協会	11月10日	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集 「15 地域社会のルール・マナーを守る (13) 住民としてのマナーを守る
那珂市国際交流協会	12月12日	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集 「15 地域社会のルール・マナーを守る (13) 住民としてのマナーを守る」
子ども向け日本語ボランティアせきれいの会	9月6日、13日	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集 「01 健康・安全に暮らす (01) 医療機関で治療を受ける」

(2) 対象

養成講座受講者全員

(3) 目的・目標

地域の実状や日本語学習者の実生活にあった適切な教材を提供することを目的とする。

(4) 構成

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集」のうち01健康を保つ(01)医療機関で治療を受ける、02安全を守る(05)災害に備え、対応する(地震)、15地域・社会のルール・マナーを守る(34)住民としてのマナーを守る、の3つの中からいずれかを選択し、アドバイザーが教案を作成する。

(5) 使い方

アドバイザーが作成した学習教材を使用し、実際の授業での教授法を受講者は学習する。

(6) 具体的な活用例

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集」のうち01健康を保つ(01)医療機関で治療を受ける

→病気にかかり、初めて病院で、診察を受ける。

※病院へ行く際に必要な持ち物、問診票の書き方、症状、体の部位の言い方等を習得し、実際に病院で診察を受ける際、活用できるようにする。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

県内の日本語教育の有資格者を茨城県日本語教育アドバイザーとして登録し、市町村や団体が開催する日本語講師養成講座に派遣することによって、県内の各地域における日本語教室及び日本語指導者の拡充を図る。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

今年度の「生活者としての外国人のための日本語教育事業」における「平成24年度茨城県日本語教育アドバイザー派遣」は、日本語教室の設置・運営、日本語教育を行う人材の養成・研修の実施、日本語教育のための学習教材作成の三つを柱として構成された。新規の日本語教室設置には至らなかったが、既に開催している各教室の安定的運営を目指し、受講者の新たな知識の習得やレベルアップ等、人材の養成において、受講者の満足度は高く、地域の日本語ボランティア教室運営において、成果をあげることができた。また、受講者が実際に日本語を教える上で生じる疑問に対し、経験のある指導者からアドバイスや答えを得ることができた貴重な場としての役割も果たすことができた。

今年度は、学習教材作成に関して、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集」を使用した教材作成を講師に依頼した。各ボランティア教室に通う外国人の学習レベルが、カリキュラム案を学習できるまでのレベルに達していないことや、受講者が現在使用している教材での教授法を希望していること等、講師は予定された時間内に全てを網羅しなくてはならず負担は大きかったが、派遣先団体と事前の打ち合わせを行い調整することで予定した時間内にどの団体も講座を修了することができた。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

今回、教材作成にあたり、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集」のうち01健康を保つ(01)医療機関で治療を受ける、02安全を守る(05)災害に備え、対応する(地震)、15地域・社会のルール・マナーを守る(34)住民としてのマナーを守るの中から3つのうち、

いずれかを選択しアドバイザーが教材を作成したうえで、その教材を使用した教授法を指導するよう指定した。

内容については、日常生活に密着している教材であるため学習者は日本語を学ぶだけではなく日本の生活でどのような点に注意し生活すべきか等、生活習慣も学ぶことができ生活者として効果的な教材になっている。だが、現状としては日本語教室に通う外国人学習者の日本語レベルが、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集」を学習できるまでのレベルに達しておらず、現状とのギャップが生じている。ある程度の日本語を習得した外国人にとっては、効果的な教材である。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

日本語ボランティア教室は、外国人にとって日本語を学習する場だけでなく、生活に必要な情報共有や生活相談の場になっており、日本語教室の役割は大きい。その現状を踏まえ、今年度、当協会では「外国人のための地域生活アドバイザー育成研修会」を全12講座開催した。研修修了者を実践的な外国人支援者として、市町村、市町村協会等と連携した活用を目指している。今後は、日本語教室をキーステーションとした外国人への更なる支援の検討が必要である。

(5) 改善点、今後の課題について

現在県内には、県内31市町村98ヶ所に日本語ボランティア教室が開催されているが、リーマンショック以降の不況や東日本大震災の影響により茨城県の外国人登録者数が減少傾向にあり、日本語教室に通う外国人が減少している。

一方、日本語ボランティア教室を運営しているボランティアが高齢化していることから、既存のボランティア教室の継続についても負担が大きく、新規の日本語教室開設に至るには難しい状況にある。

改善方法としては、若い世代の日本語ボランティア参加を促すために、大学等教育機関や各市町村協会との連携や、外国人の日本語学習者への動機付けなど積極的な広報等が必要である。また、若い世代が気軽に入れるような場所で、日本語ボランティアの実情や茨城県における国際交流・外国人支援のための研修会を開催する等、日本語ボランティアへの参加を促すことが必要である。

日本語ボランティア教室の外国人学習者の確保・増加には、各日本語教室の工夫した広報と共に、外国人学習者のレベルに合わせた教材、外国人学習者が求める日本語教育支援を提供できるようにする必要がある。今後ともこの事業を活用し、日本語ボランティア講師の養成及び教授法のブラッシュアップを行い、在住外国人の日本語力向上に努め、生活者として安定した日常を送れるように支援していく必要がある。

(6) その他参考資料

添付5 (講師からのアンケートから)

12/9

平成24年度日本語教育アドバイザー派遣制度に係るアンケート

1. 今回の講座の日程(期間)はいかがでしたか。

期間中に祭日で一週休みが入ったので、少しペースが落ちた感じがしました。続けて行った方がいいと思います。

2. 講座参加者の受講姿勢(雰囲気)はいかがでしたか。

非常に熱心な方が多く、メモをとったり、疑問点を質問されたりして、とても良かったと思います。

3. ボランティア教室(団体)との打ち合わせはいかがでしたか。

担当者や中心メンバーの方が、一生懸命で、こちらの要件に丁寧に対応してくださりました。日本語教育についてよく研究なさっていたので、話がすぐ通いました。計画がスムーズに行えて良かったです。

4. アドバイザー制度について、ご意見・ご要望等ありましたらご自由にお書きください。

いい制度だと思います。アドバイザー同志の情報交換ができればいいなと思いました。

自分にとっても、改めて、復習おと勉強になりました。ありがとうございました。いい経験をさせていただけました。

ご協力ありがとうございました。

平成 24 年度日本語教育アドバイザー派遣制度に係るアンケート

1. 今回の講座の日程（期間）はいかがでしたか。

・ 5回が日帰的には限界です。（本務との兼ねあって）
こちらの都合でイレギュラーな日程で受講者の方にご迷惑をかけた
のではないかと思います

2. 講座参加者の受講姿勢（雰囲気）はいかがでしたか。

・ 全体的に熱心でした。
・ 特に、「生活者としての外国人」に対する日本語教育」はこれまで受講者
が行ってきたものとは大きく異なる点が多いので「わからない」という声も
聞かれました。予想できたことですが、対応はむずかしいです。
・ 最終日には自主的に準備をして教室活動シミュレーションに取り組んで
下さり、感激しました。（若干意図とは異なる面はありましたがよい体面とあり）

3. ボランティア教室（団体）との打ち合わせはいかがでしたか。

・ 「特に希望を」との打ち合わせ時のご希望で行ったので「生活者としての外国人」
を中心に講座をすすめられた。
小林様、藤原様には大変み世話に感じられた

4. アドバイザー制度について、ご意見・ご要望等ありましたらご自由にお書きください。

・ 「みんなの日本語」で講座を行うには若干抵抗がありました。
「生活者としての外国人…」の考え方には共感できるので、何らかの形で
ボランティアの方々に使用していただければと思います
・ しかし、これまでそれなりにうまく運営できている機関の方には
「もう少しステップアップするためのヒント」ということで受講されている方が多く
講座内容としてご期待にそえたかは疑問です
・ 「生活者としての外国人…」は確かに受け入れられる方が多い
と思います。「みんなの日本語」のように誰でもどこでもそれなりに使える
くらい教材「マニュアル」がそろわないかぎり今のままでは
のではないかと思います。気長な取り組みが必要だと思います
・ 年配の方にはカタカナ用語が難しいという点

ご協力ありがとうございました。

(公財) 茨城県国際交流協会

「外国人のための地域生活アドバイザー」とは

東日本大震災により、外国人住民が日常生活の中で地域とのつながりを持つことの重要性が改めて認識されました。

茨城県と(公財)茨城県国際交流協会は、日常的に外国人と交流を持ち活動している方々を対象に、平成24年度に「外国人のための地域生活アドバイザー育成研修会」を開催しました。参加者は12講義にわたって外国人住民の現状を理解し、サポートするために必要な制度や知識を学びました。規定の講座を修了し、「外国人のための地域生活アドバイザー」として委嘱・登録された102名の方々が、今後各地域で身近な外国人支援者として積極的に活動します。

外国人のための地域生活アドバイザーの活動

【登録者】25市町村に 102名

日本語教育ボランティア、語学ボランティア、国際交流団体会員等、日常的に外国人と交流を持ち活動している方々です。

【活動内容】

○日常生活支援

役所などの手続き支援、学校や育児などの相談、生活習慣等へのアドバイス等

○通訳・翻訳支援

○日本語教育支援

活動依頼にあたって

○外国人のための地域生活アドバイザーは、当協会「多文化共生サポーターバンク」に登録されています。また、市町村国際交流担当課にも各地域のアドバイザー名簿があります。当協会または活動地の市町村にお問い合わせください。

○活動を依頼できるのは、在住外国人の方々です。県、市町村、学校などの公的機関や、民間交流団体等が、外国人を支援する必要がある場合にも活動を依頼することができます。

*営利、宗教、政治活動等の目的には利用できません。

○活動はボランティアであることが基本ですが、交通費・謝金については、関係者間の話し合いで決めてください。

○各活動については、関係者間で責任を持ってください。当協会が責任を負うものではありません。

市町村別外国人のための地域生活アドバイザー登録者数一覧
102名のアドバイザーが25市町村にお住まいです。

水戸市	25名	つくば市	2名	小美玉市	1名
日立市	6名	ひたちなか市	9名	茨城町	2名
土浦市	2名	鹿嶋市	2名	大洗町	1名
石岡市	3名	潮来市	1名	城里町	1名
結城市	2名	守谷市	1名	東海村	6名
龍ヶ崎市	1名	常陸大宮市	2名	阿見町	4名
常陸太田市	2名	那珂市	2名	境町	5名
笠間市	1名	筑西市	1名		
牛久市	10名	神栖市	10名		

★アドバイザーは当協会ホームページで検索することができます★

http://www.ia-ibaraki.or.jp/s_bank/index.htm

(参考) 外国人の地域生活アドバイザー育成研修

外国人のための地域生活アドバイザーを委嘱された方々は、下記の講義について研修を受けました。

【講義内容】

講義 1	『外国人の地域生活と多文化共生』：(特活) 多文化共生センター大阪代表理事 田村太郎氏
講義 2	『茨城県の在住外国人を取り巻く状況』：茨城県生活環境部国際課
	『茨城県国際交流協会の多文化共生事業について』：(公財) 茨城県国際交流協会
講義 3	『日本の出入国管理制度について』：東京入国管理局水戸出張所所長 黒崎悦郎氏
講義 4	在留資格に関連する事例ケーススタディ：茨城県国際交流協会外国人相談センター相談員8言語8名
講義 5	『外国人児童・生徒の教育支援』：群馬大教育基盤センター教授 結城恵氏
講義 6	『茨城県の外国人児童・生徒の概況』：茨城県教育庁義務教育課指導主事 谷田部由実子氏
	『日本語支援ボランティアから見た子供の姿』：子ども向け日本語ボランティアせきれいの会代表茂木好美氏
講義 7	講演『外国人の健康問題と社会保障』：多文化共生センターひょうご代表 北村広美氏
講義 8	外国人意見交換会『外国人が地域住民に求めるもの』：在住外国人8名 コーディネーター常磐大学井上繁教授
講義 9	講演『「やさしい日本語」の特徴と実際』：一橋大学国際教育センター准教授 庵功雄氏
講義 10	講演『外国人の職域拡大と就労環境改善』：茨城県外国人就労・就学サポートセンター所長 横田能洋氏
講義	講演『災害時の外国人支援』：(特活) 多文化共生マネージャー全国協議会理事 高橋伸行氏

11	
講義 12	ふりかえりとまとめ

【お問い合わせ】（公財）茨城県国際交流協会

TEL : 029-241-1611

FAX : 029-241-7611

E-mail : iia@ia-ibaraki.or.jp